

<b>単元名:くらべてみよう、せかいとにほん</b>		
氏名:藤澤 幸二郎	学校名:寝屋川市立堀溝小学校	
担当教科:全教科	実践教科:生活科	
時間数:6時間	対象学年:1年生	人数:2学級 計59人

**【実施概要】**

<b>【1】単元のテーマ・目標</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国の文化について知る。</li> <li>・日本と外国の文化の相違点や共通点を考える。</li> <li>・外国の文化に親しみを持ち、自分たちの文化について振り返る。</li> </ul>		
<b>【2】 単元の評価 規準例</b>	(ア) 知識・技能	世界には、たくさんの国があり、その国々によって文化が異なることを知る。
	(イ) 思考・判断・表現	日本と外国の文化の相違点や共通点を見つけることができる。
	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度	外国の文化に関心を持ち、主体的に相違点や共通点を見つけようとしたり、自分たちの文化を発信しようとしたりしている。
<b>【3】 単元設定の 理由</b>	<b>【児童観】</b>	
	<p>本校には、外国にルーツのある児童が在籍しており、「文化や習慣の違い」「言葉の壁」など、子どもたちの実態から課題を考え、各学年で多文化共生をテーマにした取り組みを行っている。一年生は、これまで月に数回、NET (Native English Teacher) とともに英語を中心とした外国の文化について学び、歌やゲームを通して楽しみながら学習を進めている。しかし、子どもたちの外国についての知識や興味は、まだそれほど高くない。本単元を通して、外国の文化についての興味・関心を高め、多文化共生社会を実現していく実践者としての素地を培っていきたい。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 児童/生徒観</li> <li>✓ 教材観</li> <li>✓ 指導観</li> <li>✓ 設定時に想定された児童・生徒の変容</li> </ul>	<b>【教材観】</b>	
	<p>本単元は、外国の文化と「出会う」→「つながる」という2つで構成されている。第一次の「出会う」では、「世界のじゃんけん」や「ペルーの楽器や遊び」などの体験を通して、子どもたちが異文化と楽しく出会うことのできる場を設定している。楽しい出会いを通して、違いを楽しむ心の醸成を目指している。第二次の「つながる」では、ペルーのラ・ウニオン校(日系人学校)の児童たちとビデオレターで交流を行う。それぞれの学校での生活の様子を動画に撮り、紹介しあうという内容である。外国の同世代の子どもたちと実際につながる体験をすることができる。</p>	
<b>【指導観】</b>		
<p>単元を通して、外国と日本の文化を比較し、「ちがうところ」と「にているところ」を見つける活動を行う。そうすることで、外国の文化により親しみを持ったり、自分たちの文化を振り返ったりすることを狙っている。</p>		

<p>【3】 単元設定の理由</p>	<p>本時では、本屋やスーパー、料理、学校の写真から「ちがうところ」と「にているところ」を見つけていくとともに、アニメや和食などの日本文化が世界に広まっていることを伝えていく。ビデオレターの交流では、日本から送る動画としては、①ランドセルを背負って集団で登校すること ②運動会などの行事と普段の授業の様子 ③給食の様子 ④掃除の様子、といった日本の学校文化でよく見られる内容のものを送る。ラ・ウニオン校からも①登下校時のバスや保護者による送り迎えの様子 ②普段の授業と日本語を使った授業の様子 ③昼食や休み時間の様子、などを動画で送ってもらう。「ちがうところ」と「にているところ」を見つけるとともに、日系学校(ラ・ウニオン校)の日本語の授業を見て、日本とペルーのつながりについても感じさせることができると考える。子どもたちから「どうして似ているのだろう」という疑問を引き出し、150年前にペルーへ移住し、現在まで日本の文化を受け継いできた日系人の存在についても伝えていきたい。</p> <p>【設定時に想定された児童の変容】</p> <p>子どもたちが、外国をより身近に感じることができ、文化の違いを楽しみながら親しむ姿が期待される。また、ペルーの学校と交流することで、つながることの楽しさや大切さを感じて欲しい。本実践が、子どもたちにとって、「誰もが暮らしやすい共生社会を実現するために自分ごととして考え行動する」ためのきっかけとなることを願っている。</p>		
<p>【4】展開計画(全6時間)</p>			
<p>時</p>	<p>テーマ・ねらい</p>	<p>活動・内容</p>	<p>使用教材</p>
<p>1</p>	<p>○「世界のじゃんけんで遊ぼう。」 ・いろいろな国や地域のじゃんけんを知る。</p>	<p>・中国、韓国・朝鮮、ベトナム、ペルー、インドネシアのじゃんけんを知り、じゃんけんゲームをして楽しむ。</p>	<p>・ちがいドキドキ多文化共生ナビ1</p>
<p>2 本時</p>	<p>○「ここは日本? それとも外国?」 ・外国と日本の文化の相違点や共通点を考えることで、日本と外国のつながりに気付く。</p>	<p>・日本とペルーの様々な場所で撮られた写真を見せ、そこが日本か外国かを考える。 ・日本とペルーの文化について、相違点や共通点を考える。</p>	<p>・パワーポイント ・ワークシート</p>
<p>3</p>	<p>○「ペルーについてもっと知ろう。」 ・ペルーについての知識を得たり、民族楽器や遊びの体験を通して、ペルーという国に親しみをもち、</p>	<p>・ペルーの写真を見ながら、どんな国なのかを知る。 ・ペルーの民族楽器を演奏したり、伝統的な遊びを体験したりする。 ・日本との相違点や共通点について考える。</p>	<p>・パワーポイント ・民族楽器 ・ボードゲーム</p>

4	○「学校紹介の計画を立てよう。」 ・ペルーの学校と交流するにあたって、自分たちの学校生活でどんなことを紹介したいかを考え、自分たちの生活を振り返る。	・自分たちの学校生活でどんなことを紹介したいかを考える。 ・誰がどんな動画をとるか役割分担をする。	
5	○動画撮影	・グループごとに動画撮影を行う。	
6	○「くらべてみよう、日本とペルーの学校」 ・日本とペルーの学校の相違点と共通点を考え、日本とペルーのつながりに気付く。	・ラ・ウニオン校から送られてきた動画を視聴する。 ・日本とペルーの学校の相違点と共通点を考える。	・動画

【5】本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入(5分)	めあて:ここは、日ほんかがいこくかをかんがえよう		
展開(35分)	○3つの写真(富士山、自由の女神、通天閣)を見せ、写真の場所が日本か外国かを考える。  ○6枚の写真(①本屋②授業③給食④お店⑤お店⑥料理)を見て、写真の場所が日本か外国かをグループで考える。  ○グループの考えを交流する。  ○答え合わせ(日本→③④、外国→①②⑤⑥)	・これまで、見たことのあるものや知っていることなどから考えさせる。  ・写真をよく見ると、日本語の看板が書かれているので、それを手がかりとしても良いことを伝える。  ・写真をよく見て、普段の自分たちの生活の様子と違うところなどを見つけさせる。  ・日本か外国かを分ける際には、理由を明確にするようにさせる。  外国の写真は、全てペルーのものであることを伝える。  ・「答えと合わせて伝えたいこと」 ①日本のマンガやアニメは世界的に広まっていること。	・パワーポイント  ・ワークシート

<p>まとめ (5分)</p>	<p>○日本とペルーで似ているところと違うところを話し合う。</p> <p>○ふりかえりを書く。</p>	<p>②ペルーの学校では、宗教の授業があること。</p> <p>③給食は、日本の学校では一般的だが世界的には珍しいこと。</p> <p>④日本は野菜などの包装がしっかりされているが、その反面、ゴミが多くなること。</p> <p>⑤紫とうもろこしなど、日本ではあまり見ない食材も売っていること。</p> <p>⑥日本の料理がペルー料理とかけ合わせり、NIKKEI料理として親しまれていること。</p> <p>・ペルーでは、日本の文化が親しまれていることを伝える。</p>	<p>・ワークシート</p>
---------------------	--	--	----------------

【授業実践の様子】



写真の場所が、外国か日本かをグループで話し合っている様子。

写真で見つけた日本と外国との相違点や共通点を交流している様子。



## 【6】本時の振り返り

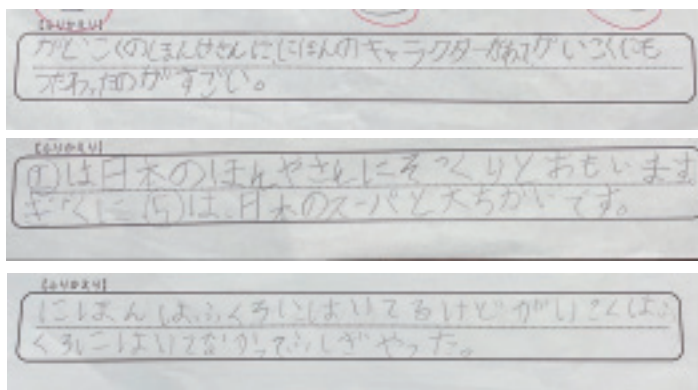
外国と日本の写真を6枚用意した。授業前の想定では、①～⑤の写真は、多くの児童が日本か外国かを判断することができ、⑥の料理の写真は意見が分かれるのではないかと考えていた。結果は想定どおりであった。①～⑤の写真では、自分たちの学校生活を思い出したり、ひらがなや外国語などの言葉をヒントに考えたりしている児童が多かった。⑥の写真では、自分たちが家や店で食べている寿司と比べて考えていた。ある児童は、「近所にあるお寿司屋さんには、こんなメニューがないから、この写真は外国だ。」と話しており、別の児童は、「自分の家で食べるお寿司は、写真と同じようなかたちのもが出るから、この写真は日本だ。」と話していた。答え合わせをした時には、児童は⑥の写真の結果に一番驚いている様子であった。子どもたちのつぶやきを聞いていると、料理は国によってかたちを変えるだけでなく、同じ国でも各家庭においてかたちが変わるということを発見していた。日本と外国を比べるだけでなく、自分の生活を振り返ったり、友だちの生活と比べたりして考えを深めていた。

## 【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

・導入の「世界のじゃんけん」では、自分たちのよく知る遊びと言うこともあって、とても意欲的に遊んでいた。特に、インドネシアのじゃんけんが「グー、チョキ、パー」でないことやペルーのじゃんけんが「ヤンケンポツ」と日本の言い方に似ていることに驚きを持っていた。

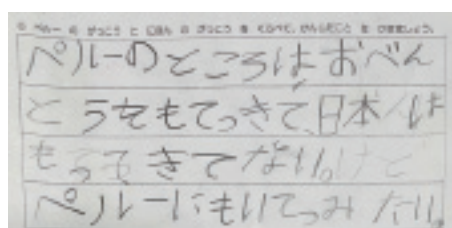
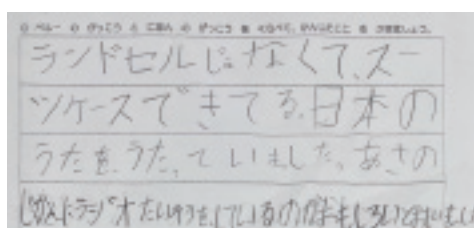
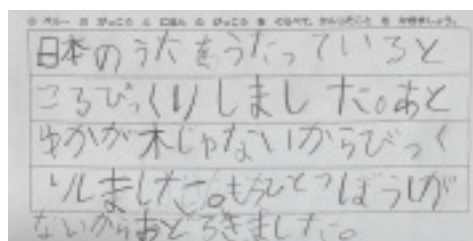
・単元の前半では、外国の文化に触れる中で、日本の文化との相違点や共通点にたくさん気づき、驚きや不思議さを感じている児童が多かった。

## 【第2時(本時)の児童のふりかえり】



・単元の後半では、ペルーの学校と実際につながるとあって、とても意欲的に動画撮影に取り組んでいた。また、ラウニオン校からの動画を見て、違いをより実感したり、ペルーに親しみを抱いたりしている児童がふえた。

## 【第6時の児童の感想】



## 【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

図書の時間に、外国について本で調べている児童もおり、外国に対しての興味・関心が増えた。また、児童のつぶやきや振り返りの中に、「給食を食べられる日本っていいな」や「日本のスーパーは、商品を綺麗にパックしている」「でもパックのゴミが増えるのはよくない。」などの意見が見られた。異文化理解を通して、自分たちの生活を振り返っていた。

ペルーの学校と交流することを伝えた際には、「楽しみ～」や「緊張する」といった言葉が聞かれた。いざ動画作成を始めると、自分たちから紹介したいことを考え、とても意欲的に撮影を行っていた。ラ・ウニオン校から送られた動画を見た際には、自分たちの学校との違いに、「面白い」「楽しそう」「ペルーに行ってみたい」などペルーに対する肯定的な意見が多く見られた。ペルーの子どもたちとつながることの喜びを感じることができた。

## 【授業を通じた途上国・異文化・多文化共生等への意識の変容】

(授業前)

- ・外国に対する知識はほとんどなく、アメリカや中国、韓国といった国々の名前ぐらいしか知らない児童が多かった。
- ・「外国語＝英語」と思っている児童がほとんどであった。
- ・1年生であるため、日本の文化についてもまだ深く認識しておらず、外国の文化と日本の文化を比べて考える機会はほとんどなかったと考えられる。

(授業後)

- ・外国に対する知識は、いくつかの国の名前を知っている程度であったが、国によってそれぞれの文化があることや日本とは違う文化が存在することを知った。
- ・外国語は英語以外にも、韓国語や中国語、スペイン語など様々な言語が存在し、文字の形も全然違うことを知った。
- ・外国の文化を自分たちの文化と比べて考えることで、改めて自分たちの文化の良さを知ったり、外国の文化の面白さを発見したりすることができた。

## 【8】自己評価

## 1. 苦勞した点

- ・外国と日本の文化の相違点や共通点を考えることで自分たちの文化の良さや外国の文化の良さに気づかせながら学習を深めるという点で苦勞した。単元を計画する際には、異文化を「楽しく知る」ことはとても大切だが、「ただ楽しかった」だけで終わってほしくなかったので、単元を通して、日本と外国の文化を比べる活動を取り入れた。しかし、いざ授業をしてみると相違点や共通点を見つけることはできても、見つけただけで終わってしまっている児童が多く、学習の深まりが初めはあまり見られなかった。
- ・ペルーの現地の学校とやりとりをする際に、時差の問題や言葉の壁、学校文化の違いなどの難しさを感じた。こちらも十分に異文化を知った上で交流を行うことが必要であった。

【8】自己評価	
2. 改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相違点や共通点を見つけるだけで終わってしまい、学習の深まりがあまり見られなかった点については、具体的な質問をすることで、ある程度改善できた。例えば、「給食とお弁当どちらがいい？」などの質問をすると自分たちの生活を振り返ったり、外国での暮らしを想像したりしながらそれぞれの良さを考えていた。考えを深めさせたい場面では、十分に発問を練っておく必要があると感じた。</li> <li>・ペルーの現地の学校ともっと交流を重ねたかったが、学期制の時期などが違い、十分に交流することが出来なかった。今後は、それぞれの学校文化をより理解し、長く深い交流を続けて行きたい。</li> </ul>
3. 成果が出た点	<p>子どもたちが、「世界にはそれぞれ自分たちと違う文化が存在する」ということを楽しみながら感じられたことが大きな成果であった。また、ペルーと日本の「つながり」を知り、実際に交流を行うことで、より「つながり」を感じることができたのではないと思う。</p> <p>子どもたちには、違いを知り、違いを楽しみ、違いを尊重する心を持ち、多文化共生などの社会にある諸課題を自分ごととして捉え、行動できる人になってほしい。今回の学びが、そのための一つの機会となったのではないと思う。</p>
4. 備考 (授業者による 自由記述)	<p>児童が休み時間に、「世界のじゃんけん」をして遊んだり、外国語を練習している様子を見て、子どもたちの新しい知識や経験を吸収する力の高さを改めて実感した。今回は、異文化との「楽しい出会い」をねらいの一つとしていたので、出来るだけ子どもたちが、「おもしろい」や「もっと知りたい」と思うような教材を選定した。しかし、子どもたちが普段よく目にしていくメディアには、外国に対して負のイメージを抱かせる内容も多い。SNSの世界では、偏見や差別を助長するものも少なくない。違いを豊かに認め合い、誰もが暮らしやすい社会を創る実践者を育てていくためにも、今後も多文化共生教育をすすめていきたい。</p>

添付資料:1 本時で使用したワークシート

ここは 日ほん それとも がいこく? 名まえ ( )

○つぎのしゃしんのぼしょが、日ほん か がいこく かをかんがえ、○をつけよう。また、そうおもった りゆう もかんがえよう。

<p>①ほんや</p> 	<p>②じゅぎょうのようす</p> 	<p>③きゅうしよく</p> 
<p>( 日ほん ・ がいこく )</p>	<p>( 日ほん ・ がいこく )</p>	<p>( 日ほん ・ がいこく )</p>
<p>④おみせ</p> 	<p>⑤おみせ</p> 	<p>⑥りょうり</p> 
<p>( 日ほん ・ がいこく )</p>	<p>( 日ほん ・ がいこく )</p>	<p>( 日ほん ・ がいこく )</p>

【ふりかえり】

参考資料:

・『ぼくの、わたしの、世界の学校』

著者:マーグリート・ルアーズ アリス・フィーガン

出版社:すずき出版

・『世界の子どもの遊び』

著者:寒川 恒夫 出版社:PHP研究所

・『ちがいでキドキ多文化共生ナビ1・2』

著者:大阪府在日外国人教育研究協議会